



2025年12月17日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 P R I S M B i o L a b

代 表 者 名 代 表 取 締 役 竹 原 大

(コード番号 : 206A 東証グロース市場)

問 合 せ 先 取 締 役 管 理 部 長 武 内 伸 治

(TEL. 0466-53-8383)

Talus Bioscience, Inc.との共同研究契約締結のお知らせ

本日、当社とTalus Bioscience, Inc.は、転写因子 (Transcription Factors, TF) 及びタンパク質／タンパク質間相互作用 (Protein-Protein Interaction, PPI) 標的に対する新規阻害剤の探索を目的とした共同研究契約を締結しましたのでお知らせいたします。

詳細につきましては別紙のプレスリリースをご覧ください。

なお、本件による2026年9月期（2025年10月1日～2026年9月30日）の当社業績に対する影響は軽微です。本件はPPI創薬の卓越した技術を持つバイオテック企業との連携の第一弾であり、「PepMetics®技術」の発展の礎となることが期待され、中長期的に当社の成長可能性と企業価値の向上に資するものと考えております。

以 上

Contact:
PRISM BioLab Co., Ltd.
info@prismbiolab.com

26-1, Muraoka-Higashi 2-chome, Fujisawa,
Kanagawa 251-8555
<https://prismbiolab.com>



PRISM
BioLab

PRESS RELEASE

PRISM BioLab と Talus Bioscience、共同研究契約締結のお知らせ —転写因子およびタンパク質間相互作用ターゲットに対する新規阻害剤の探索で提携—

東京（日本）、シアトル（米国ワシントン州） — 2025年12月17日：— 本日、株式会社PRISM BioLab（以下「PRISM」）とTalus Bioscience, Inc.（以下「Talus Bio」）は、転写因子（Transcription Factors, TF）及びタンパク質／タンパク質間相互作用（Protein-Protein Interaction, PPI）標的に対する新規阻害剤の探索を目的とした共同研究契約（以下「本契約」）を締結したことをお知らせいたします。Talus Bioのヒト生細胞環境下におけるTFおよびPPIのスクリーニング評価技術と、PRISMのPPIを標的とする創薬技術を組み合わせることで、両社はこれら難易度の高い創薬領域に対して独自の地位を確立します。

本契約の下で両社は、PRISMが独自に有するPPI低分子ライブラリーを、Talus BioのAIを活用したレギュロームプロファイリングスクリーニングに組み込み、高価値なTFおよびPPI標的に対する新規化合物の同定と最適化を行います。両社の協業により、ヒト生細胞内でTFおよびPPI活性に直接的な機能効果を持つ“ファースト・イン・クラス”（First in Class）の新規医薬品候補化合物の創出を目指します。両社は研究開発にかかる費用を共同で負担し、共同研究の成果として医薬品候補となりうる化合物が創製されライセンスアウトや商業化によって利益が得られた場合、あらかじめ定められた比率にて両社間で分配します。

「このエキサイティングなプロジェクトでTalus Bioと提携できることを非常に嬉しく思います。」とPRISMの代表取締役である竹原大氏は述べています。「PRISMはPPIを標的とした優れた創薬技術である『PepMetics®技術』を開発していますが、TFやPPIは複雑な性質を持つため、生化学的評価で適切にモデル化することはしばしば困難であり、仮に成功したとしても一度に解析できる標的数は限られます。しかしながらTalus Bioが有する技術は、数百から数千もの標的を並行して解析することができます。両社のプラットフォームを組み合わせることで、従来“創薬不可能”とされてきたTFやPPIに対する多数の阻害剤を発見し、新たな治療薬開発への道を切り拓けるものと確信しています。」

「この協業は、従来の創薬では攻略できなかった標的に挑戦する前例のない機会を与えてくれます。」とTalus BioのCEO兼共同創業者であるAlex Federation博士は述べています。「PRISMのPPI創薬技術をTalus BioのレギュロームプロファイリングとAIモデルに統合することで、化合物がヒト細胞内の転写ネットワークをリアルタイムでどのように再構築するかを可視化できます。これは“創薬不可能”とされてきた標的に挑む能力を飛躍的に高めるものです。」

今回の提携は、TFおよびPPIを標的とする創薬に対して体系的かつスケーラブルな戦略を確立するうえで、両社にとって重要な一步となります。PRISMおよびTalus Bioは、数十年にわたり創薬が困難とされてきた制御メカニズムを解明し、調節可能とする統合プラットフォームを構築します。PRISMの「PepMetics®技術」と、Talus Bioのレギュロームプロファイリング技術を組み合わせることで、これまで“創薬不可能”とされてきた標的に起因する疾患に対する治療への道を開いてまいります。

以 上

＜用語説明＞

※1 【転写因子】(Transcription Factors, TF)

細胞核内に存在するDNAに特異的に結合し、遺伝子の発現を制御するタンパク質の総称です。DNAの適切な部分の情報を読み取ってmRNAを生成し、翻訳機構によって新たなタンパク質が生成されます。転写因子は立体構造が複雑で結合可能な生体内物質が存在しないものも多く、転写因子を標的とする創薬は困難とされてきました。

※2 【タンパク質／タンパク質間相互作用】(Protein-Protein Interaction, PPI)

生体内に存在する複数のタンパク質が相互に作用し、状態に応じて特異的複合体を形成する現象です。体内では様々なタンパク質が細胞内外にあってシグナルを伝える役割を担っており、異常をきたすと疾患の原因ともなり、重要な創薬標的となります。

※3 【レギュローム】(regulome)

遺伝子調節に関与する因子を包括的に示す用語です。例えば遺伝子を調節するために働くプロモーターやエンハンサー、転写因子、様々な非コーディングRNA等を含みます。

※4 【ファースト・イン・クラス】(First in Class)

従来にない新しい作用機序を持つ“最初の画期的新薬”を指します。ある疾患領域において既存薬とは異なる新しい作用機序や構造を持ち、初めて市場に登場することから、既存の治療法を大きく変革し、患者さまに新しい選択肢を提供する医薬品です。

＜会社概要＞

【Talus Bioscience, Inc.について】

Talus Bioは、レギュロームを創薬に活用可能にする企業です。2020年に設立され、シアトルを拠点としています。同社のプラットフォームは、転写因子やその他DNA制御因子を含むレギュロームのグローバルプロファイル（網羅的なデータセット）をヒト細胞内で直接生成します。これらの定量的マップは、従来“創薬不可能”とされてきたタンパク質を標的とする新たな道を開きます。

Talus Bioは、このデータを活用してラボとAIを統合したシステムを構築し、レギュローム活性に直接作用する低分子を発見・最適化しています。世界最大規模のレギュローム活性データセットと、ハイスクープットプロテオミクス、機械学習、AI創薬を横断するチームにより、精密医療の新世代を切り拓いています。

詳しくは、<https://www.talus.bio/> をご覧ください。

【株式会社 PRISM BioLab について】

PRISM BioLab は、独自に開発した α ヘリックス・ β ターン模倣技術を活用して、低分子化合物によるタンパク質間相互作用（PPI）の制御による創薬を目指している企業です。PRISM BioLab は、従来困難であった細胞内で様々な信号を伝達する PPI を制御する独自のペプチド模倣技術である『PepMetics®技術』を構築し、がんや線維症分野の臨床パイプラインを創出するとともに、国内外の多数の大手製薬会社と提携してこれまでに無い難病治療薬の創出に取り組んでいます。

詳しくは、<https://prismbiolab.com/ja/> をご覧ください。

報道関係者問い合わせ先:

株式会社PRISM BioLab

Talus Bioscience, Inc.

管理部 経営企画

Eric Schudiske

info@prismbiolab.com

eric@bioscribe.com